

伊賀市都市マスタープラン（たたき台案）の概要と論点について

第4回策定委員会は、第3回策定委員会での現状分析を受けて（1）都市づくりに向けた主要課題、（2）都市づくりの目標、（3）将来の都市の構造、（4）都市づくりの戦略方針について議論をいただく場と考えています。

（1）～（4）について、たたき台案の概要についてご説明します。

なお、策定委員会では特に（4）を中心に討議を行いたいと考えています。

【たたき台案の概要と論点】

（1）都市づくりに向けた主要課題

主要課題は、前都市マスタープランのような個別の課題の列記ではなく、個別課題をまとめて、伊賀市固有の課題である①伊賀らしさの維持、③人口減少抑制、⑤広域連携の必要性、⑥地域自治による課題解決、全国的に共通する課題で伊賀市でも対応が必要な課題である②人口減少のなかでも暮らしやすい都市構造の実現、④大規模災害への対応の6つに集約しています。p2～3に記載の各課題の説明をお読みの上、問題点・疑問点・提案等があれば、事前に意見をいただき、当日は、意見に対する回答と確認程度としたいと考えています。

（2）都市づくりの目標

前都市マスタープランの将来都市像である「多核連携型の都市構成」を今後も目標としつつ、主要課題の①伊賀らしさの維持、③人口減少抑制の課題解決を付加させ、伊賀らしい多核連携の仕組みとして「伊賀流多核連携型都市」を目指そうという提案です。

伊賀流とは、前都市マスタープランのような合併前の旧市町村を単位にしたコミュニティの連携でなく、みんなが活躍できる地域のしくみづくりとして地域福祉計画が掲げる**伊賀市流地域共生社会のしくみと連携し、伊賀らしい歴史・文化の継承、地域産業の内発的振興を進める強靱な構造を目指すものです。**

ただし、理念と実際の都市マスタープランの内容に齟齬が生じるようでは、理念倒れとなるため、最終的に再検証の必要があると考えています。このため、当日は事務局の提案とし、第5回策定委員会で確定したいと考えています。

なお、都市づくりの目標は、主要課題を目標に転換したもので、主要課題と同じように、事前に意見をいただき、当日は確認程度としたいと考えています。

（3）将来の都市の構造

前回の都市マスタープランの多核連携型の都市構成は、都市拠点とネットワークで構造を表現していましたが、今回の伊賀流多核連携型都市構造は、伊賀らしい歴史・文化、自然の継承、地域産業の振興による活力向上及び安全・安心の要素を加えた強靱な構造としています。また、地域拠点に地域包括ケアの視点を加えることで、伊賀市流福祉システムとの連携も目指しています。

具体的には、継承する都市構造の要素（p9～10）として、歴史・文化及び自然環境とし、伊賀らしさの継承を前面に出した都市構造としています。このほかに構造として継承すべき事項があれば意見をください。

また、都市拠点の形成では、前都市マスタープランの広域的拠点から特に重点地区として

2カ所を抽出し、「3-3 都市づくりの戦略方針」につなげています。その点についても意見ををお願いします。

地域拠点の位置付けは、前回と大きく変えていませんが、今回の都市マスタープランでは、福祉との連携が重要という位置付けより、地域ケア圏域を意識して伊賀と青山の地域拠点を地域包括拠点と名称を変更しています。その点についても意見ををお願いします。

追加した構造の目標5と目標6については、活力の要素とした知的対流拠点候補（農協及び観光協会）の関係者に意見を伺いたいと考えます。なお、災害対策重要地区についての詳細な対策方針については、この都市マスタープラン策定後見直しを予定している伊賀市立地適正化計画で検討を予定しています。

これらの点についても事前に意見をいただき、当日は確認程度としたいと考えています。

（４）都市づくりの戦略方針

この項目が、先般のヒアリング等の成果を反映した部分で、今回策定委員会はここを重点的に議論し、取りまとめの方向性を確定していきたいと考えています。

具体的には、①上野中心広域的拠点のまちづくり、②上野南部広域的拠点のまちづくり、③地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり、④魅力的な居住環境と働く場の確保の4つの内、①と③を中心に議論していただきたいと考えています。

なお、②は、市民アンケートと上野卸商業団地ヒアリングで方向性は示されており、策定委員会では確認程度で十分と考えています。また、④の魅力的な居住環境づくりは、行政の施策課題であり、策定委員の方に議論していただく必要は少ないと思います。なお、働く場の確保については、③との関連で、コミュニティビジネスを産業に育てる仕組みとして議論していただき、具体的な知的対流拠点づくりについて、農協や観光協会の立場で意見をいただきたいと思います。

① 上野中心広域的拠点のまちづくり

中心市街地活性化については、資料にあるように「第2期中心市街地活性化基本計画」、「歴史的風致維持向上計画」、「空き家対策計画（上野城下町ホテル等）」がありますが、どの計画も「道路の安全性」「下水道（污水）の問題」「駐車場の問題」等、都市計画の視点が置き去りのままです。このため、都市マスタープランでは、市街地活性化、歴史まちづくりと整合を図りながら、都市計画としての伊賀らしい解決策を示す必要があります。

都市マスタープランは、今後10年間の都市計画の方針ですので、議論のなかで結論を導き出す必要はありませんが、都市計画がやるべきことを明確にしたいと考えています。

そのため、提案しているのが、①城下町の姿を継承した新たな交通計画の整理、②まち壊しにならない居住誘導施策の検討、③産業を創造する観光資源を活用した知的対流拠点づくりです。その内容を各委員の視点で深めていただきたいと考えています。

なお、実現目標については、市民アンケート調査やこのエリアを対象にした計画である「第2期中心市街地活性化基本計画」との齟齬はないことより、この目標を委員会で確認の上、前提として議論を進めたいと考えています。

したがって、上野城下町の景観の保全を前提とした3つのテーマの展開として、交通の安全確保、下水道（污水）問題への対応、空き家・空き地の活用方法等自由に考えて、策定委員会で意見をくださいますようお願いします。

② 地域包括拠点及び地域拠点のまちづくり

地域の65歳以上人口比率は、現在島ヶ原地域が40%を超えていますが、10年後の2030年には、(社)国立社会保障・人口問題研究所の推計では、すべての地域で40%を超えることが予想されます。

このため、高齢化した地域を支える身近な生活拠点の維持が益々重要で、このことは、市民アンケートや地域ヒアリングでも示されています。

しかし、現状の利用状況をみると必ずしも地域拠点が有効に機能していません。そこで、地域の守りの砦として、地域福祉計画の地域区分のヒエラルキーに準じた構成（全市→**地域包括ケア圏域**→**支所圏域**→福祉区域圏【住民自治協議会】）とし、その構成にあった拠点の機能及びネットワークを構築する仕組みとしています。これにより、**支所に頼らない地域拠点のあり方**を、「**地域の攻め（価値創造）**と**守り（生活維持・向上）の拠点**」の視点より再構築しようという提案です。

その方法として、①地域の内発的発展を支える**攻め（価値創造）の拠点づくり**と②伊賀市流共生社会と連携した**地域の守り（生活維持・向上）の拠点づくり**を示しており、この具体化の可能性、問題点や改良方法等について、議論いただければと考えます。内容事態は都市計画の範疇を超えていますが、伊賀市の都市構造を支える**地域拠点は、都市計画の視点のみでは維持が難しく、福祉＋地域産業興し＋地域自治の視点も加えた拠点として、地域に根付かせる必要があると考えますので、まず、都市マスタープランでその方向性を示したい**と思います。そのような視点で議論いただいたいと考えています。

このため、**地域のコミュニティビジネスを地域の生活を支える産業に発展させるために必要な仕組み**（お金も人も地域に流入させる産業等）

（たとえば：資料のp46～47に「伊賀市における『攻め（価値創造）』の取組み例」がありますが、コーディネーター欄が空欄です。しかし、すべての事業は発起人がいて、それを前に進める手助けをした協力者がいます。そのような視点で事業の始まりを想像し、その事業をより発展させる仕組みを資料の提案内容も含めて考察してみてください。）

また、**生活維持・向上のために必要な地域拠点の再構築の方法**

（たとえば：旧阿山支所跡地では、活用計画について民間に募集し、福祉施設及び併設する診療所と連携を密にし、一つの災害拠点としての施設にしたいという提案があり、その提案が採用されました。また、上野卸商業団地では、伊賀の卸業の力を結集して、魅力的な価格での出前販売の計画を検討中という話を社会福祉協議会とのヒアリングで耳にしました。このような具体的動きも視野に入れ検討してみてください。）

ぜひ多様な意見をお聞かせください。